

社外取締役メッセージ



新任取締役メッセージ



社外取締役
中西 勇太

エネルギー事業者としての マルチパスウェイ戦略の具現化に向けて

東邦ガスグループは、ガス・水素・電気の3つのエネルギーを組み合わせ、お客さまとサプライチェーン全体のカーボンニュートラルを実現する方針をとっています。このマルチパスウェイを実現する上で大切な視点は「エネルギーの未来をどう考えるか」です。

これまででもこれからも、社会を支えるのはエネルギーであり、そのエネルギーに対してどうアプローチするかが、中部エリアの企業活動を変えていくと考えています。地球環境の保護と資源の持続可能性の観点から、カーボンニュートラルな社会を目指していくことは不可欠であり、同時に、「経済・くらしの安定」と「エネルギーセキュリティ」が担保されていることが極めて重要です。

競争力のあるエネルギーを迅速にお客さまにお届けできるよう、社外取締役という立場から、東邦ガスグループの社員の皆さんとともに「考動」してまいります。

社外取締役メッセージ

教育者としての経験を活かした提言で、人的資本の強化に貢献



社外取締役 瀨田 道代

お客さまとともに進めるカーボンニュートラル

中期経営計画2022-2025では、都市ガス・LPG・電気を合わせたエネルギーのお客さま総数を300万件に増やすことを目標に掲げました。2023年度末にこの目標を達成できたことを高く評価しています。

計画では、くらしを豊かにするサービスやビジネスを支援するサービスの拡充も掲げました。創意工夫に溢れる新サービスを提供することでお客さまとの接点が増え、ガス事業だけでなく電気事業やその他の事業に

においても、信頼に足るパートナーとしてお客さまに選んでいただけるようになったと実感しております。

また、業務用分野におけるエンジニアリングサービス、CN×P事業には、とりわけ期待しています。CO₂排出量削減の課題に直面しているお客さまに対し、削減施策の導入、導入設備のメンテナンス、効果検証等をワンストップで提供することで、一緒にカーボンニュートラルを目指そうとする、このサービスの理念に共感しています。技術力を磨いてお客さまの信頼を獲得し、早々に軌道に乗せることが肝要と考えます。

これらを含め、カーボンニュートラルの推進については、「できることは全部やる」精神で取り組んでいます。この努力が実を結ぶよう、社外取締役としてそれぞれの案件の方向性と成果を確認しつつ、客観的な立場から提言をしてみたいです。

人的資本の充実を通じ、未来に向けてさらなる成長を

昨今注目度の高まる人的資本については、私自身の長年にわたる高等教育における経験を活かし、社員が働き甲斐を感じつつ、社会的課題に積極的に取り組める職場環境の実現を目指し、様々な提言を行ってまいります。社員のリスクリングや能力向上、キャリア採用

の拡大、社内公募制の拡充、インターンシップやオープンカンパニーの充実、社内人材交流、シニアの長期活躍、障がい者雇用の拡大など、これらのテーマに積極的に関与し、貢献していきます。

東邦ガスグループは地元で人気の高い就職先であり、優れた人材が集まる企業です。そのため、各人が仕事を通じて意欲と能力を磨き、持てる力を最大限に発揮することで、当グループの未来は大きく切り拓かれると確信しています。

社外取締役として、 皆さまからの信頼を回復できるように

今回の競争法関連の不適切な事案により、株主・投資家の皆さまやお客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまの信頼を損ねたことを重く受け止めております。二度と同様の事態が発生しないよう、会社法学者および公正取引委員会委員としての知見を活かして執行側に提言を行い、コンプライアンスの徹底に努めます。

社外取締役として、一日も早く皆さまからの信頼を回復できるよう、誠心誠意、ガバナンス改革に尽力してまいります。

社外取締役メッセージ

脱炭素技術の開発を進め、東邦ガスグループの将来の主軸に



社外取締役 大島 卓

重要度を増す

カーボンニュートラル推進への取り組み

東邦ガスグループは2021年度に新たなビジョンを発表し、その実現に向けた第一ステップとして、中期経営計画2022～2025を策定し、4つのテーマについて取り組みをスタートさせました。テーマ達成に向けてまず取り組んだのは、営業部門と技術開発部門の組織再編成です。効率的に業務が進むよう実務内容と課題を整

理・分析し、実効が上がる体制へと強化しました。体制が整った今、思う存分力を発揮して成果につなげていきます。

中期経営計画の4つのテーマのうち、最も重要度の高いテーマは、エネルギー事業者にとっては基本ともいえる「カーボンニュートラルの推進」であると捉えています。本テーマのうち、「ガスのお客さま先の低・脱炭素化」については、燃料転換やエネルギー高度利用のための各種バーナの開発や、CO₂をオフセットしたLNGの拡販等を進めることで、着実に進捗してまいりました。また、「ガス自体の脱炭素化等に向けた技術開発」についても、CO₂分離回収技術の評価試験を開始し、メタネーション技術においては知多市と共同で小規模実証試験に着手するなど、積極的に取り組みを進めています。

将来的には、e-methane大量導入につながる技術がガス事業者の本命技術になると確信しています。ぜひ成功させ、次のステップに進むべく、全社一丸となって邁進してまいりましょう。

技術者として、経営者として、 幅広い知見を活かし、提言

私は1980年に日本ガイシ(株)に入社して以来、生産技術分野を中心に、海外駐在、新製品の開発、新規事業の立ち上げに尽力してまいりました。その後、社長として働き方改革やコーポレートガバナンスの強化に取り組み、現在は日本ガイシの会長を務める一方、多種多様な業界の社外取締役や経済団体の会長として、会社経営や財界活動に幅広く携わっています。

これらの経験から、物事を成し遂げるには最初の考え方、進め方が肝要であり、同時に、会社が高い目標を達成するためには、従業員一人ひとりの能力を最大限引き出し、適材適所で活躍させることが極めて重要であると実感しています。

東邦ガスグループがさらなる飛躍を遂げるためには、新規事業の創出や海外事業展開に果敢に挑戦することが不可欠です。新規事業を軌道にのせてきた知見を活かし、東邦ガスグループの挑戦が花開くよう、全力を尽くしていく所存です。